

時流 自論

「時流」の自論として、この雑誌の歴史を振り返る。この雑誌は、戦後の文壇に於いて、重要な役割を果たしてきた。その歴史を振り返ることは、現在の文壇を理解する上で、重要な手がかりとなる。

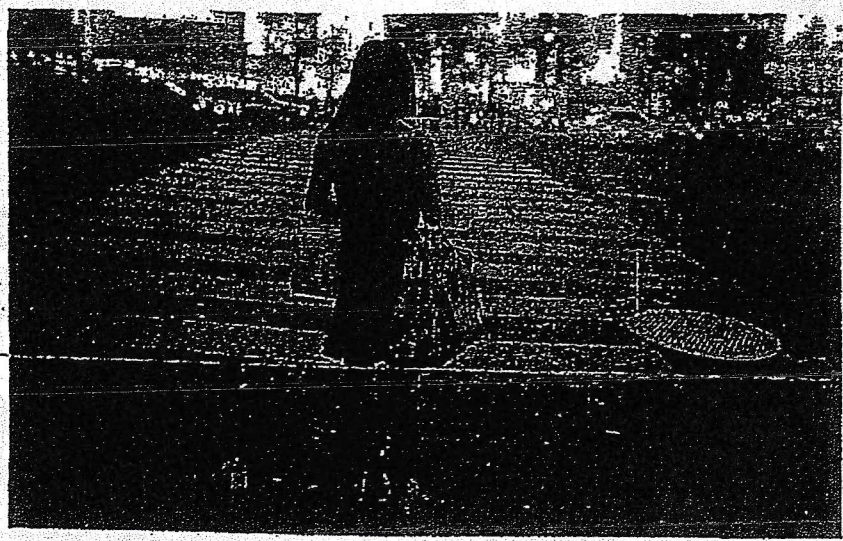
藤原 新也



ふじわら・しんや 写真家、作家。44年生まれ。著書に「印度放浪」など多数。6月初めに「時流」が刊行される。

今、時流の歴史を振り返る。戦後の文壇に於いて、重要な役割を果たしてきた。その歴史を振り返ることは、現在の文壇を理解する上で、重要な手がかりとなる。

なぜ殺し合う、母と娘



母と娘の対峙

母と娘の対峙。母と娘の間に、なぜ殺し合うのか。その理由を探る。母の愛と、娘の恨み。その複雑な感情の葛藤を、この作品は鋭く描き出している。

母と娘の間に、なぜ殺し合うのか。その理由を探る。母の愛と、娘の恨み。その複雑な感情の葛藤を、この作品は鋭く描き出している。

母の愛は、娘にとって、呪いのようなものである。娘は、母の愛を、憎む。憎む。憎む。その憎みは、いつか、母を殺すこととなる。その瞬間、母と娘は、血を流す。血を流す。血を流す。

母と娘の間に、なぜ殺し合うのか。その理由を探る。母の愛と、娘の恨み。その複雑な感情の葛藤を、この作品は鋭く描き出している。

母の愛は、娘にとって、呪いのようなものである。娘は、母の愛を、憎む。憎む。憎む。その憎みは、いつか、母を殺すこととなる。その瞬間、母と娘は、血を流す。血を流す。血を流す。